

～～～東京方面大学見学会を終えて～～～

私は、東京大学への入学を目指している者の1人である。この目標を達成するために、この場を借りて、今回の仙台二高OB・OGの方々との懇親会と東京大学オープンキャンパスについて多くのことを記したいと思う。(以下では、東京大学のことを東大、東京大学の学生の方を東大生と表記する。)

まずは仙台二高OB・OGの方々による懇親会について。今回お集まり頂いた卒業生の先輩方は、その殆どが東大生であった。私の第1印象として、今巻では「イマ東」や「イカ東」などの東大生の呼び名があるが、全くその通りで、東大には多種多様な優秀な人材が多く集まっているのだと感じた。やはりこうやって東大生を間近で見ると、全身に緊張が走り身震いをした。

そんな緊張した面持ちのまま、初めに1人目の方とのグループ対話が始まった。(グループ対話とは、仙台二高現役生が8～10数名ほどのグループを幾つか作り、各グループに卒業生の方が1人ずつ配置され、行われる対話のことである。)するとすぐに私の緊張は何処かへ消えていった。それは、その東大生の物腰が柔らかく、とても話しやすかったからだ。それに、その方は東大の大学院で物理学科を専攻しているため、自分の将来とすごく近いものを感じ、話がすんなり耳に入ったということもあるかもしれない。その方は、仙台二高の現役生だった頃の自分をこうおっしゃっていた。

◎平日の勉強時間は1～2時間で、平日の睡眠時間は6時間程度だった。

◎週に1回のペースで東進衛星予備校に通っていた。

◎分からなかった問題は各自完璧に解けるようにしておくのはもちろん、1度解けた問題であっても何度も繰り返し見直していた。

◎授業中は先生に応じて、自ら勉強を進めていた。

◎志望大学の問題の「クセ」に合わせて受験勉強していた。

◎志望大学の2次試験の問題を1年生のうちから目を通し、自分なりに分析していた。

◎この世には勝者と敗者が絶対に存在する。仙台二高に合格したという勝者(自分)は、常に敗者(頑張ったが手が届かなかった者)を思って日々の勉強に精進していた。

私はただ列挙しましたが、1つ1つが大学への道標となる重要なものなので、私もこのありがたいお言葉を肝に銘じて頑張っていこうと思います。

続いて、2人目の方です。東大の文学部に所属しており、1人目の方とは違い、苦手教科の克服について少しアドバイスをもらいました。この方も自分が現役生だった頃をこうおっしゃっています。

◎たくさん勉強時間を増やすより、短い時間の中で効率良くし、質を高めることを目指していた。

◎復習よりも予習に力を入れ、ガンガン先取りをしていた。

◎毎日、どの新聞社のものでもいいから新聞を読み、時事などについての一般教養を持っていた。

◎苦手な教科書は最低でも平均点以上できるようにし、得意教科はとことん突き詰めて誰にも負けないうようにしていた。

◎科学雑誌ニュートンを読んで、主に苦手な物理を克服しようと努め、見事に苦手克服した。

◎平日に2～3時間勉強していたが、今振り返ってみると東大に楽々合格するには、

4時間必要だった。

◎本を読んだり、旅に出たりすることでたくさんの刺激を受けて、自分の世界を広げていった。

◎いろんな事に興味を持ち、自ら調べていた。

◎当たり前のように東大を目指し、全てにおいて東大基準。

◎とにかく英語をした。ネクステージという単語・文法・語句について詳しく掲載されてある参考書を徹底的に覚えた。リスニングにおいては、色々な問題集・参考書に付属してあるCDを使って、発音や消える音に慣れていった。

私は英語が大の苦手なので、もちろん他のアドバイスも取り入れつつ、この方の英語の勉強法を参考にして苦手克服できる自分スタイルの勉強法を確立させ習得したいと思った。

そして、懇親会の最後に、ある東大生から課題が出された。その内容とは、「センターチャレンジ」という模試で英語は85%以上、数ⅠAは90%以上、数ⅡBは90%以上の正解率を目指すというものだ。これを全てクリアできると、東大には及ばないものの、難関国公立・私立大学レベルに達していることを意味する。とても難しい課題ではあるが、決してクリアできない課題ではない。1日1日の勉強を大切にし、やることをきちんとやるのが鍵となる。今日は貴重で有益な体験をしたと、余韻に浸りながら寝床についた。

次の日、私は東大のオープンキャンパス（以下、東大OC）に参加した。友達と赤門をくぐった時の感動は今でも忘れられない。少し進むと安田講堂があり、それは私を圧倒する力を持っていた。私はこの日から、安田講堂を「学問の皇室」と譬えるようになった。いつか「学問の皇室」に出入りできる優秀な人間になると誓った。

そして、私は友達とニュートリノについての授業を受けた。その内容は、ご存知の方も多いと思うが、梶田教授が発見された「ニュートリノ振動」についてだ。私はニュートリノについて完全な無知ではなかった。テレビ番組やネットを活用し事前に調べていたので、授業の内容を概ね理解することができた。

この授業の中で1番私が興味を抱いたのは、「反ニュートリノ運動」だ。まず「ニュートリノ運動」について説明する。「ニュートリノ運動」とはニュートリノのフレーバー（電子、ミューオン、タウ粒子のいずれか）が、後に別のフレーバーとして観測される現象のことをいい、これはニュートリノが質量を持つことで起きるとされている。この運動の証明により宇宙創成時にニュートリノときっかり同量生み出された反ニュートリノも質量を持つことになる。ここで少し近未来の物理学の話になるが、その反ニュートリノが「反ニュートリノ振動」すると、その運動の仕方が「ニュートリノ運動」と同じなのか違うのかを実験で観測している。この実験結果の予想では「CP対称性の破れ」が関係しており、もしかするとまだ誰も測定したことがない「破れ方」をしているかもしれないと期待されている。また、宇宙の謎の解明に大きく繋がる最先端の物理学として広く注目されている。

授業後、流石は東大OCにきている者、知識と意欲が有り余っており、この授業をされた横山先生のところへ出向き、面白い質問をしていた。この時、彼女と自分の差を痛感した。私だって何か質問しようと思っていたが、結局思いつかなかったからだ。先生も彼女の質問の内容に驚いていたが、1つ1つ丁寧に噛み砕いて解説した。その時の先生の話し方や身ぶり、表情から「彼女はできる人だ。」と思っているのがわかった。彼女には悔しくも惜敗だった。

この2日間で経験したことは、確実に将来の自分を形作るだろう。自分は「東大に合格する」という高い志を持ち続け、3年間努力することが大事だと思う。私は、良い人生とは努力に満ちたものだと考える。私の経験上、人一倍の努力をした結果、自分が得たいもの・欲するものを自分のものにすることができた。これからも「努力」を積み重ね、今度は学生として赤門をくぐりたい。